

景況レポート

(7月分・情報連絡員80名)

県内景況は足踏み状態続く

【概況(全体)】

7月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが7.5%(前回調査8.8%)、「悪化」が38.8%(同38.8%)で、業界全体のDI値は-31.3となり、前月調査と比較して1.3ポイント下回った。

全国及び東北・北海道ブロックとの比較では、本県の景況DI値は、製造業は依然として大幅に上回っているものの、非製造業は低調となり、全体の景況DI値は、全国及び東北・北海道ブロックより低い水準で推移した。

【業界別の状況】

業界別では、食料品や商店街などで景況感が後退した。このうち商店街では、季節のイベントやセールが開催されたが、業況は低調に推移した。一方、鉄鋼・金属では、受注が増加し業況が改善したほか、木材・木製品、印刷、建設業では業況の悪化割合が縮小した。

全体の景況感としては、住宅着工をはじめとする需要の減退や個人消費の低迷等により景気回復を実感できない状況が依然として続いており、また、進行する円高基調も外需不振を一層顕在化させていることから、中小企業の先行きは予断を許さない状況にある。

＜全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較＞

	秋田県	全国	東北・北海道
全体	-31.3	-30.5	-26.2
製造業	-15.6	-32.6	-24.4
非製造業	-41.6	-28.7	-27.3

＜景況天気図＞

項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業						
非製造業						

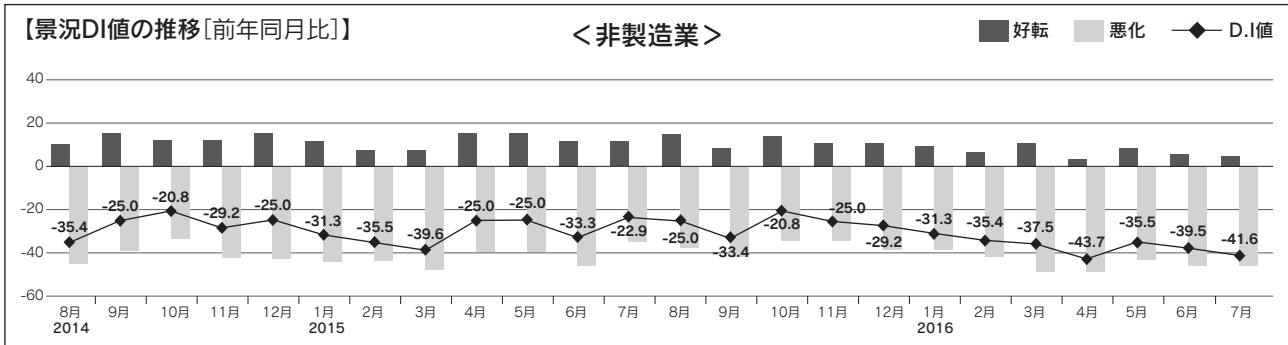
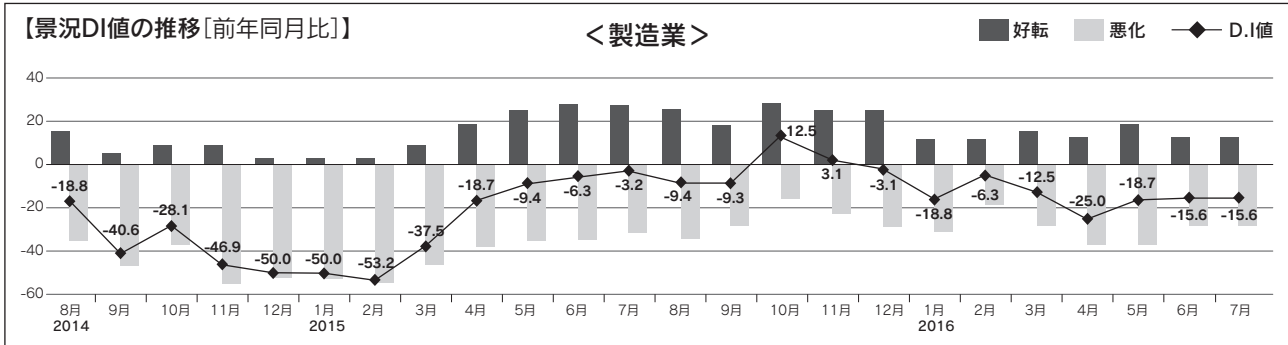
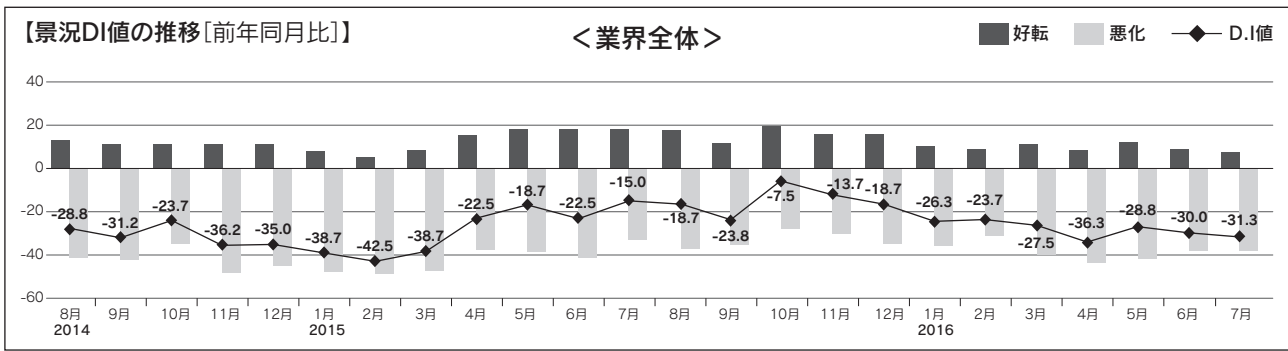
【凡例】 快晴 30以上 晴れ 10以上 30未満 くもり △10以上 △30超 10未満 △10未満 雨 雷雨 △30以下
 【天気図の見方】 前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

【業界の声】 ～製造業～

(回答数：32名 回答率：100%)

食料品 (米飯給食)	7月の売上は、前年同月比94.5%で推移した。特注弁当は大口受注があり売上が増加したが、コンビニエンスストアの閉店等による受注の減少が影響し、全体を底上げできなかった。
繊維工業 (ニット)	秋物生産の最盛期であり、各組合員企業ともフル稼働している。しかし、一部アパレルの春夏製品の期中追加発注が以前よりも減少したため、今シーズンの計画生産分の受注の確保が課題となっている。
繊維工業 (繊維)	婦人服の生産は、年間で一番の繁忙期を過ぎ、今後の受注の確保が大事な時期となった。海外生産に重点を置いているメーカーが、国内にどの程度目を向けてくれるかが課題だが、売上維持のため積極的に営業している。(県南地区)
木材・木製品 (一般製材)	7月は荷動きが回復せず、受注量は前年同月を下回った。製品販売価格も据置または引き下げ要請が強く、景気回復の気配は感じられない。(中央地区)
木材・木製品 (素材生産)	4月の秋田プライウッド向浜第二工場の火災の影響が一段落したことや、向浜のバイオマス発電所が本格稼働したことから原木の消費は進んでいるが、前年同期に比べ未だ在庫が多く、生産量、価格ともに横ばいで推移している。
印刷	売上は前年同月比横ばいで推移したが、昨年が低調であったため、景況が良くないことに変わりはない。(県南地区)
窯業・土石製品 (生コンクリート)	7月の出荷数量は、前年同月比92.4%となった。地区別では、仙北地区で角館病院の建設工事、湯沢雄勝地区で地熱発電工事があり、それぞれ出荷増となったが、他の地区は本荘・由利地区の前年並みを除くと、全て前年同月を下回っている。特に、秋田地区は昨年秋田市役所建設工事の反動により、前年比59.4%と激減している。
鉄鋼・金属 (鉄鋼)	7月は民間工事、公共工事とも受注が増加し、各組合員企業とも100%以上の稼働率となった。この状況が継続することを期待している。
一般機器 (金属加工)	業況は、組合員企業間で若干バラツキはあるものの、総じて活発に推移しており、当面の受注は確保できている。しかし、価格や納期等の取引条件は、依然として厳しい状況である。
その他の製造業 (曲げわっぱ)	弁当箱は相変わらず人気があり、好調な受注が続いている。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：48名 回答率：100%)

卸売業 (青果卸)	7月の売上は、前年同月比92.0%で推移した。県内では、好天により野菜も順調に収穫されているが、関東地方では水不足により野菜の生産量が落ち込んでいる。そのため、関東地方に出荷した方が高値で売れ、逆に県内が野菜不足となり、秋田の野菜を関東から仕入しなければならない状況となっている。
小売業 (石油)	ガソリンの小売価格は、1ℓあたり116円60銭で前月比3円の値下がり、軽油は1ℓあたり101円50銭で前月比2.3円の値下がり、配達灯油は18ℓで1,117円で前月比94円の値上がりとなった。県南地区では、市況が安定しており収益を確保することが出来たものの、県北、中央地区では市況が悪化しており、厳しい状況であった。
小売業 (家電)	オリンピック需要により、大型テレビに動きが見られた。また、梅雨明けとともにエアコンの問い合わせが急増したが、売上は前年同月比約90%であった。
商店街	7月は、街区を会場に「ゆざわの休日」イベントが開催され、大勢の来場者があり、飲食店では売上が増加した。しかし、他の業種には変化が見られなかった。(湯沢市) 夏のセールを開催中だが、7月の抽選券の発券状況は前年実績を下回っている。大型の消費財が動かないため、1人当たりの抽選本数も減少傾向にある。8月の動きに期待したい。(大館市)
サービス業 (タクシー)	速報値では、前年同月比で運行回数が94.1%、運送収入が92.9%と前年同月を下回った。参議院議員選挙があったことと好天が影響し、タクシーの利用が控えられた模様である。また、乗務員不足には歯止めが掛からず、対前年比で100名余りの減少となっている。
建設業 (電気工事)	民間工事の新築、増改築工事ともに受注量は前年同月比で増加している。しかし、これまで年々増加していた大仙地区の集合住宅は、ここに来て人口減少の影響もあり、停滞している。(大仙市)
運輸業 (トラック)	7月後半になり、セメントや野菜を中心に輸送量が回復傾向にある。今後の動きに期待している。(中央地区)
その他の非製造業 (砂利採取)	生コン用骨材は、荷動きが若干活発になったものの、路盤材等は依然として鈍い状況である。(県南地区)